

第6日

令和8年6月16日（火）

午後3時20分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、4番渡辺毅議員の質問を許可します。4番渡辺毅議員。

（4番渡辺 毅君登壇）

○4番（渡辺 毅君） 皆さん、こんにちは。4番議員の渡辺毅でございます。本日はお忙しい中、傍聴にお越しくださりありがとうございます。また、インターネットを通して御視聴してくださっている皆様、御視聴してくださり誠にありがとうございます。

朝倉市では4月19日に市長選挙が行われ、当初の予定を覆し、中島市長が見事当選を果たされました。誠におめでとうございます。選挙前に出馬への思いを市長に伺った際、「自分が市長選に出馬して戦う姿を見て、若い世代も挑戦してほしいんだ」と言われていたことが思い出されます。もし、神がいるとするならば、その中島市長の純粋な思いに神が働き、勝利の運勢を手繰り寄せたのではないかと。投票率は46%と首長選としては決して高い数字ではありませんでしたが、多くの市民は中島市長に朝倉市の未来を託したいと思い、票を投じたのではないかと思います。

朝倉市が多くの方から住みたい町、住んでよかった町として支持されるようになり、若者から、この町で店を開きたい、開業したい、新たに農業を始めたいと思っていただけるようにステップアップすることを期待いたします。

そのためには、市役所が適切に情報発信を行い、朝倉市で起業しようとする民間の動きを後押しできる組織となっていくことが重要であると考えます。それには市役所の職員の皆さんが意欲的に働けているのか、意欲的に働くための環境が整っているのかということも重要なポイントであります。

今回の質問の前半では、いかにして朝倉市役所をチャレンジする組織にしていくのかというところを中心に、質問を進めてまいります。

後半では、高齢者の交通の足であるコミュニティバスと、自動車運転免許の高齢者講習について質問いたします。

続きは質問席より質問しますので、執行部におかれましては明確な答弁をお願いいたします。

（4番渡辺 毅君降壇）

○議長（小島清人君） 4番渡辺毅議員。

○4番（渡辺 毅君） まずは、チャレンジする市役所となっているのかということについて質問を進めてまいります。

近年、朝倉市役所では、正職員の退職者数が20名を超えております。午後1番目の3番議員の質問のやり取りの中でもありましたが、まず、過去5年間の正職員の退職者数をお

尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（古賀 博君） 過去5年間の退職者数ということですが、いわゆる割愛職員、任期付職員を除く常勤職員でお答えいたしますと、令和3年度が23名、令和4年度が23名、令和5年度が13名、令和6年度23名、令和7年度23名でございます。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 現在の朝倉市の正規職員数は、保育所などを含めた職で定期任用職員を除いた分は507名と把握しておりますが、間違いはないでしょうか。

○議長（小島清人君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（古賀 博君） 令和8年3月末現在で、任期付職員ほか県職員等を除きますと、その数字になります。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 正規職員の離職割合は、23を507で割りますと、約4.5%となります。その数字について、多いか少ないかということを検証しようと思いますが、これまで人事を行ってまいりました副市長、お答えください。多いか少ないか、見解をお願いします。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 正直に言いまして4.5%が多いか少ないかは分かりません。結果的にこの数字になっていると思いますし、勧奨退職もこれ、含んでいると思いますので、イコール、通常の仕事が嫌だとかそういったもので辞めたものではないと認識しております。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 勤務の期間が3年に満たない職員が辞めていくのであれば、職場になじめなかったのかと理解することもできますが、過半数が係長、課長を目前とした中堅クラスの職員であれば、現場としても大変な痛手であります。

先ほど3番議員のやり取りの中では、20代が5名、30代が7名、40代が2名、50代が2名、60代が1名の17名が勧奨退職者以外の普通退職者であったという数字が出てまいりました。

退職者数が多くなると、市民サービスの低下や、同じ業務を行うのにかかる時間が長くなるなど、業務継続性のリスクも懸念されます。この点につきまして、副市長、どう思われますか。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 当然ながら、長く働いていただけることに越したことはないと思っております。

ただ、昨今の状態も見ますと、やはり、終身雇用というのがもう崩れてきておりまして、

なかなか最後まで働いていただいていないという状況にあるかと思っております。そもそも、私も最後まで働いておりませんので、55歳で退職しましたので。そういう状況でございます。以上です。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） ありがとうございます。以前、同じような質問を、離職者数についての意見を市の職員に聞きましたところ、「今は終身雇用の時代ではなく、よりよい職があれば転職する時代だ」と言われて、私はそんなもんかなと受け止めておりました。

しかし、この春、この考えを改めざるを得ない出来事がありました。今年4月に行われた地方議員選挙で、私の知り合いが出馬し、当選いたしました。社会的地位や立場を持った方でありましたが、その職を辞しての挑戦でありました。

当選後、詳しく本人に話を聞いたところ、「以前の給料と比べると議員報酬は減るけれども、地域でやりたいことがあったので、背水の陣を敷いて戦った。当選して満足している」ということでありました。この話を聞きまして、やりがいのある仕事であれば、所得は下がっても、ぜひやってみたいと思うのは、この方に限ったことではないというふうに思いました。

ここで改めて思いますのは、朝倉市役所がやりがいのある職場になっているのか、市の職員のどれだけの方々が、やりがいを感じて働いているのかということです。

地方自治体といえば、中小企業のように潰れる心配はほぼありません。よほどのことがなければ、辞めるという判断はしないはずです。副市長は辞められたということですが。

辞めていかれた23名の方々のほとんどは、就職当初は希望に満ちて働いていたとしても、いつしかやる気をなくしてしまっているとするなら、非常に残念なことであります。副市長、この点についてどう思われますでしょうか。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 23名全ての方がやる気をなくして仕事を辞めたと思っておりますので、すみません、お答えしかねます。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 辞職の理由としては、様々な理由が考えられます。やはり、やりがいがなくなって辞めたケース。また、ある話では、スクラップ・アンド・ビルドが進まなく、業務が積み上がるだけで、現場の職務が煩雑になって大変であったということも聞いております。また、風通しの悪さ、相談できる相手がいない、そして、介護など家庭の事情などが考えられます。辞める原因としてですね。

どうすればやりがいが出てくるのかということを考えてみました。一般的に、自分が役に立っていると実感できるときにやりがいを感じます。自分の意見が聞かれる、挑戦できる、成果が見えるときです。逆に、自分の意見が聞かれない、挑戦できない、成果が見え

ないときには、だんだんとモチベーションが下がり、働くことに嫌気が差してくるのではないのでしょうか。

また、職場の環境が不公平なものであればやる気は低下します。例えば、能力のある人よりも能力のない人が先に要職に就くなどした場合、そして、職務怠慢や過失が見過ごされた場合、これも同じ環境で真面目に働く職員の意欲をそぐものです。

ここで質問します。やりがいのある職場づくりのために取り組んでいることをお尋ねいたします。これは、もう副市長にこだわりませんので、どなたでも。

○議長（小島清人君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（古賀 博君） 仕事をする上でやりがいは大事なことだというふうに認識をしております、職員自身が市民のために仕事をしているんだということを、私も含めて強く持ち、やりがいを持って働くことが大事だというふうに思います。そのためには、モチベーションを維持することが大事なんですが、それを積極的にチャレンジできる環境を整えていく必要があるというふうに思います。

先ほど来、ほかの議員からの質問でもありましたコミュニケーションが、やはり職員間では大事だというふうに思っております、実際やったことといたしましては、昨年度、係長級を対象としましてコミュニケーション研修を実施をしております。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） コミュニケーション研修というのは、いわゆる傾聴力を高めるような研修というふうに受け止めてよろしいでしょうか。

○議長（小島清人君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（古賀 博君） ファシリテーターの方に来ていただいて、お互い孤独にならずに相談し合える関係性といいますか、そういうのをお互い、係長同士で話していただくような体験をしたりとか、あとは、おっしゃるとおり傾聴力、そういったものの研修を行いました。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 傾聴力に関する研修は、職員の資質向上のために非常に重要であると考えます。市民の皆さんが窓口を訪れたときに、何に困っているのか的確に聞き取って判断するのは、最も大切なことです。

同様に、市の職員が部下から相談を受けたときに、的確に受け止めて対策を講じること、これが非常に重要であると考えます。特に中間管理職については、傾聴力は必須のスキルであります。

この傾聴力の研修につきましては、今年度も実施するのでしょうか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（古賀 博君） そうですね、実施したいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 傾聴力の研修だけでなく、やりがいの創出についても前向きに取り組まれるようお願いいたします。

続きまして、職場の風通しの向上について考えてみます。

この質問をするに当たり、私の人生を振り返りましたが、私は選挙に落ちるたびに仕事を変えましたので、結果として5つの会社で正社員として働いてきました。辞めた理由は、留学するため1回、家庭の事情が1回、選挙に出るため3回です。

営業から製造業の現場まで様々な職を経験しました。ある職場は、非常に苛酷な労働の現場でした。そのような中でも目標を達成するまで辞めずに済んだのは、本音で愚痴を言い合える仲間がいたからにほかなりません。

そのことを考えますと、今の市役所内で、果たして、本音で愚痴の言い合える人間関係ができていだろうか、職員の不満のはけ口はあるのだろうかと心配になります。

そこでお尋ねしますが、以前は、職員同士が環境を変えてリラックスした雰囲気ですら自由に発言できる、オフサイトミーティングを取り入れておりました。立場を外して率直に話せる場合は、信頼関係構築に効果があるようです。過去には、若手の提案が市役所の業務改善につながったこともあると聞いております。

オフサイトミーティングやそれに似た研修を取り入れてはいかがでしょうか。特に10年未満の若手職員には有効だと思います。いかがでしょうか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（古賀 博君） 希薄化する人間関係というのが社会的にも指摘されているところだと思います。繰り返しになりますが、円滑なコミュニケーションは仕事をする上で重要な要素となっておりますので、職員間のコミュニケーションの質を高めて、上司からの声かけとか適宜面談を活用しながら、働く意欲とか、それとプラスして、職員の生活の幸福度を高めるような取組も必要かなと思っております。

それで、議員おっしゃったオフサイトミーティング等の取組は、私も行ったことがあります。そういう精神を引き継ぎながら、今後もやっていきたいというふうに思っておりますし、なかなかアフターファイブの付き合いっていうのも、今は社会的に、若い人たちは好むのかどうかというのがあるんですけども、そういった仕事外のコミュニケーション等も活発になればいいのかなというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 朝倉市の職員は貴重な朝倉市の財産でもあると思いますので、やりがいの創出、チャレンジする市役所づくりに向けた、市長の決意をここでお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず、人生100年時代になりまして、私は、やっぱり健康が大事なのかなと。長生きしても健康でなかったら、そんなにいい人生じゃないと思いますので、

健康が大事だと。そのためには、ワーク・ライフ・バランス、やはり、仕事とプライベートのバランスを取っていくことが大事と考えております。

私、市長職にならせていただきまして、市役所の職員の方は非常によく働かれます。本当に忙しいんだなあ、遅くまで働くなあと思っております。

先ほどお話がありましたように、新規事業がたくさんあるんですけれども、そういった中で、やはり新規事業がどんどんたまっていくと、数が多くなりまして忙しくなるのは当たり前ですので、やはり、何かやめていけないといけないのかなあと思っております。ですから、スクラップのほうをやってもらいたいなあと思っております。これは、指示を出してスクラップをしていきたいと思っております。

市長が「これをやめなさい」「あれをやめなさい」というのは、多分、部下の皆様は楽だと思います。市長が一刀両断にバッサリ切るわけですけど。

でも、私はチャレンジを挙げていますので、担当課の皆さんに考えてもらいたいと思っています。自分たちで、何が必要で、何が一番効率がいいのか、それを考えてもらって、チャレンジしていただきたいと思っています。

廃止、削る、こういったことは、職員にとっては立派なチャレンジだと思っておりますので、チャレンジをしていただいて、ワーク・ライフ・バランスを取っていただいて、そして、精神衛生上も風通しのいい職場、これをつくっていただきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 大変頼もしく感じました。思う存分、采配を振るってください。私も一議員、そして、一市民として応援したいと思います。

続きまして、市長のスケジュールについてお尋ねいたします。

中島市長におかれましては、間もなく就任して1か月となりますが、非常に御多忙な日々を送られていることと思います。

先日、介護関係の総会に参加した方から、「隣の筑前町の田頭町長は来ていたが、朝倉市からは市長も副市長も来ていなかった。重要な総会なので来たほうがよいのではないか」と御指摘を受けました。各種団体から送られてくる市長への案内状、招聘状は、全て市長の手に届いているのでしょうか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（古賀 博君） 市長へ様々な御案内等を頂きますが、全てに出席できるわけではございません。市長には確認をしていただいた上で、行政上の公務と調整し、出席と欠席を決定しているという状況です。時には同時刻の御案内も重なることもありますので、出席できないものもございます。

また、市長欠席の場合は代理出席等もありますが、業務等の関係によりまして代理出席もかなわない状況があるということでございます。

○議長（小島清人君） 4 番渡辺議員。

○4 番（渡辺 毅君） 分かりました。市長の体は1つしかありませんので、副市長や教育長、部長などを頼って業務の遂行をなさってください。

続きまして、次のテーマに参ります。高齢者の交通の利用についてであります。まず初めに、自動車運転免許の高齢者講習についてであります。

このテーマは、3月議会で6番議員も触れておりました。私からは同じように、うきは市の自動車学校の枠を広げる方法をもう少し掘り下げる案と、また、朝倉市内に高齢者講習のコースのみを設置する案について質問を進めてまいります。

まず、本市の高齢者の現状について申し上げます。私が確認した数字では、2020年時点で、70歳から74歳が4,364人、75歳以上が8,853人、合計1万3,199人の高齢者が、70歳以上の方が本市におられます。また、令和5年の要介護・要支援認定者は3,138人であり、これらの方々を除いた約1万人が、高齢者講習の免許更新の対象となり得る層と推計されます。

高齢者講習は70歳以上の全ての運転者に義務づけられており、3年に1度受講しなければ免許更新ができません。しかし、現在、市内に高齢者講習を実施できる教習コースが存在しないため、うきは市や小郡、筑紫野まで移動しなければならない状況となっております。実際に市民からは、「予約が取れない」「断られた」「遠方まで行くのが負担」「家族に送迎を頼まなければならない」といった声が寄せられております。

私は、本市の高齢者の約半数である、先ほどの1万人の約半数である5,000人程度が免許更新を希望すると仮定し、3年に1度の講習を市内で受講すれば、年間1,600人規模の需要が見込めると試算しております。実際には他市へ流れる分もあるため、1,000人程度の受講者数でも採算ラインに近づく可能性があると考えております。

そこで質問いたします。本市の70歳以上の高齢者人口及び要介護・要支援認定者数について、最新の正式な数字をお示してください。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 住民基本台帳によります、朝倉市の令和8年3月末時点における高齢者の状況についてお答えいたします。

70歳から74歳の人口が4,044人、75歳以上の人口が1万368人、合計で1万4,412人となっております。

また、要介護認定者の状況につきましては、要支援認定者が849人、要介護認定者が2,377人となっております。

○議長（小島清人君） 4 番渡辺議員。

○4 番（渡辺 毅君） 先ほどの数字と大差ないことが確認できました。

続きまして、高齢者講習の受講環境について、本市として現状をどのように認識しているのか、予約困難や移動負担など、市民の声をどのように把握しているのでしょうか。お

尋ねします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 現在、予約が取りにくい状況にあるということは認識しております。市といたしましては、近隣のうきは市自動車学校のほか、議員もおっしゃいましたように、小郡、筑紫野、日田など周辺の教習所でも受講が可能であること、また、免許更新期限の6か月前から受講することを踏まえまして、対象となる方には通知が届き次第、選択肢を広げて早めに予約していただければと思います。機会を捉えて、そのことについて周知してまいりたいと考えております。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 昨日の時点で、うきはの自動車学校の予約の状況を確認しましたところ、朝倉市からの受講は10月まで予約が埋まっておりました。うきはの自動車学校では、うきは市民の枠と、朝倉市の枠と、大刀洗、田主丸の枠というふうに分けて、朝倉の分も枠を確保してくださっております。その枠が10月まで埋まっておったということであります。

ここでは、まず市内に高齢者講習に特化した局所コースを設置することを提案いたします。

調べましたところ、長崎県の大村市に、高齢者講習と認知機能検査に特化した講習センターが2022年に開設されております。

私は、高齢者講習専用の簡易コースを市内に設置する方法として、次の2つのパターンを考えております。1つ目は、市が土地や建物を提供し、民間事業者を公募して運営を委ねる方式です。2つ目は、民間事業者が既存施設、例えば工場の跡地や広い駐車場などを転用し、市は、国から取れる補助金の情報の提供や申請の支援など、後押しに徹する方式。

この2つの方式を想定しておりますが、国のものづくり補助金や地方創生関連の補助金を活用できる可能性もあります。完全に調べられておりませんが、先ほど申しました長崎県大村市のケースでは、恐らく2に近い形で運営されているものと思われます。

そこで伺います。本市として、今述べたような事業者誘致や補助金活用支援について、検討する余地はありますでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 自動車免許更新時の高齢者講習につきましては、道路交通法に基づきまして、各都道府県公安委員会が主体となって実施されている制度でございます。講習の実施につきましても、指定自動車教習所や一定の要件を満たした機関に対して、委託または指定が行われるという仕組みになっております。

このため、市が独自に事業者を募集し、講習事業の実施主体を決定することはできませんので、基本的には福岡県公安委員会の枠組みの中で対応されるものと認識しております。以上です。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） それでは、高齢者講習の実施には公安委員会の認定や指導員確保などの課題がありますが、本市として県警や関係機関と協議を行う考えはありますでしょうか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 現時点におきましては、その必要性、実現性について様々御意見があるかと思えますけれども、将来的な検討課題としては受け止めさせていただきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 将来的な可能性の一つというふうに理解いたしました。

それでは、高齢者の移動負担軽減、地域の交通安全、そして、住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくりという観点から、うきはの自動車学校の朝倉市民の枠を広げるということについて考えてみます。

朝倉市は、面積が246平方キロメートルと広く、東西に広がっております。東側半分に住む方は、どこよりも、うきはの自動車学校が近い状況です。うきは市が経営に携わっております。かつては、御存じのように甘木にも自動車学校はありましたが、人口減少により経営状況が見通せなくなり、撤退を余儀なくされました。

そこで、うきはの自動車学校に対して、人を出して朝倉市民への枠を広げてもらえないかを考えます。

高齢者講習の指導者には、一般の方よりも警察官を退官された方がなりやすい状況です。警察官のOBを定期任用職員などで採用を朝倉市がいたしまして、高齢者講習の指導者の試験を受けてもらい、うきは市へ派遣する。その見返りとして朝倉市への枠を広げてもらうという方法であります。

これは相手のあることでもありますが、その方法を検討してはいかがでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） うきは市の自動車学校において、本市の住民の予約枠を拡大するために、人員確保とか費用面の補助について直接的な補助を行うということにつきましては、他地域との公平性の観点や、他の民間事業所への影響等を勘案しますと、現時点では困難であるかと思っております。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 少し述べましたが、やはり、朝倉市は面積が広く246平方キロと、県内4番目の広さを持っておりまして、人口の分布は、こっちの西側半分に集中しておりますが、西側半分の人ほどこの自動車学校に行っても距離的にはそんなに大差ないです。小郡だろうと、筑紫野だろうと、川の向かいの。

ところが、東側半分が圧倒的に、やはり、うきはが近いというところで、平成29年の災害を受けたときにも、被災者の多く、私の知り合いでは、川の向こうのうきはに住んだという方もいらっしゃいます。

この際というか、広域で、やはり1つの経済圏をつくっていくということも、今後、人口減少の局面では想定しないといけないと思いますので、そういう視点からも考慮してくださいと思います。

続きまして、コミュニティバスの利便性向上のテーマに進んでまいります。

まず、朝倉市内を網羅しているコミュニティバスやあいのりタクシーがございますが、その概要の説明をお願いいたします。

○議長（小島清人君） 防災交通課長。

○防災交通課長（古賀 守君） まず、令和8年3月に第2期朝倉市地域公共交通計画を策定いたしまして、「誰もが快適で安全安心に移動できる地域公共交通のあるまち朝倉市」を目標像に掲げまして、コミュニティバス、あいのりタクシーも含めますが、利便性向上について取組を進めておるところでございます。

具体的には、多様な移動ニーズに応じた、地域に適した新たな移動手段の導入を目標の一つとして掲げておりまして、現在、コミュニティバスを含むあいのりタクシーの路線は、全部で9路線ございます。上秋月・安川線、長湊線、朝倉地域コミュニティバス、それから、馬田線、福城線、矢野竹線、美奈宜の杜線、杷木エリア、あいのり高木号とございます。

運行に関しましては、市内の運行事業者3社にお願いしておりまして、あいのり高木号につきましては、高木コミュニティで運行を行っていただいております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） コミュニティバスは、自動車免許を持たない方の重要な市民の足です。市内の全域を網羅しており、使い方によっては便利なのですが、ネックとなっているのが、事前に電話をしなければならない点です。買物に行くとき、病院に行くときなど、行きの時間は容易に設定できますが、問題は帰りの時間です。「病院の終わりの時間が分からないので、帰りの時間を設定しづらい」という意見をよく聞きます。

そこでお尋ねしますが、電話予約なしで、定時で走らせることはできないでしょうか。お答えください。

○議長（小島清人君） 防災交通課長。

○防災交通課長（古賀 守君） 市の利便性の向上の取組の方向といたしましては、現在、運行の形態としまして、便数が少ないことと、バス停までの距離があることなどの不便さが挙げられております。

これを改善するために、決められたエリア内の中で、予約に応じて運行する区域運行で

ございます、ドア・ツー・ドアへの見直しを行っていくこととしております。そういうことで、利便性の向上を図っていく方向でございます。

杷木地域におきましては、既に本格運行を行っておりまして、路線不定期で運行していた令和5年度の利用者数の実績が192人でしたが、令和7年度から、区域運行をドア・ツー・ドアに切り替えまして、令和7年度の実績は3,725人と大幅に増加いたしました。

こういう方向性で、区域運行について、令和8年10月から新しく朝倉地域へも導入を行うこととしているところでございます。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 杷木地域では、ドア・ツー・ドアの運行が始まって利便性が向上し、利用者もぐっと増えたということであります。電話で予約する点以外では、それ以外の地域で大変便利な仕組みであると思います。

例えば、三奈木地区を走る矢野竹線や美奈宜の杜線では、ほとんどがフリーの乗降区間となっておりまして、指定のバス停はあるものの、路線上のフリー乗降区間であれば、どこでも乗り降りが可能となっております。

このフリー乗降区間が設定されていることは、あまり市民の皆さんに知られておりませんでした。私も時々、あいのりタクシーについて住民の方から尋ねられるのですが、フリー乗降区間があることを伝えると、「それは利用しやすい」と、「利用してみて利用しやすかった」と感謝されたこともあります。

もう少し上手に周知徹底されたらよいのではないかと思います。現在はどのような形で、住民の皆さんにコミュニティバス、あいのりタクシーについて周知しているのでしょうか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 防災交通課長。

○防災交通課長（古賀 守君） 住民への周知につきましてでございます。市民と交通事業者、行政の関係者等と連携した公共交通の利用促進を目標に、情報発信の充実など積極的な周知活動を行って、利用環境の充実に努めていっておるところでございます。

具体的には、広く市報やホームページ等に掲載し、運行の周知をすることはもとより、鉄道や路線バスをはじめあいのりタクシーを含めたコミュニティバスについて、出前講座、例えば集落単位、区単位での、いきいきサロン等での説明会等を行っているところでございます。

現在でも地道ではございますが、これからも運行の周知と利用促進の活動については積極的に行いまして、利用率の向上を図っていきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員。

○4番（渡辺 毅君） 自動車免許の返納時に1万円ほどの回数券をお渡ししているとお聞きしておりますが、そのときにも、併せてサービス面を強調してお伝えされたらよろし

いかと思います。

コミュニティバスとあいのりタクシーは、住み慣れた朝倉市に住み続けるための重要な交通機関であると思います。利用者が増えれば、電話予約なしの定時での運行も視野に入るかもしれません。私も一市民として周知するお手伝いをいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 4番渡辺議員の質問は終わりました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は明日17日午前9時30分から行い、一般質問を続行いたします。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後4時零分散会